

羽 曳 野 市

市制50周年を市民とともに
～ふるさと“はびきの”の再発見～

羽曳野市は、平成21年1月15日に市制50周年を迎えました。

羽曳野という名称は、「古事記」や「日本書紀」に登場します日本武尊（ヤマトタケル）が、「白鳥に姿を変えて羽を長く曳きながら天に上った」という白鳥伝説にちなみ、鳥が羽ばたくよう市も発展するよ

うにとの願いが込められ、命名されたものです。この記念すべき年に、多くの市民の皆様方にご参加をいただきながら、これまでの50年を振り返り、1年間を通じて心に残る記念事業を開催しているところです。

はじめに、市制50周年のキャッチフレーズ「ぼくのふるさと わたしのふるさと ずっとふるさと 羽曳野」は、300通を超える応募の中から決定させていただきました。この50年を節目に、子どもから高齢者の方まで「羽曳野に住んでよかった、今後とも住み続けたい」と感じていただけるような「ふるさと羽曳野」づくりを進めたいという思いです。このキャッチフレーズを掲げ、昨年5月の峰塚公園開園をはじめ、市民や団体のご協力により、「第33回はびきの市民フェスティバル」において、地域における新たな市民交流や地域の活性化をめざし、羽曳野市のシンボルロードともいえる白鳥通りを、市民、来訪者が集い、語り合う場所として「白鳥通り歩行者天国」を開催するなど様々な記念事業を行っています。

本年1月10日には、市立生活文化情報センター（LICはびきの）において、市主催による市制50周年記念式典が行われ、プロローグにパイプオルガンが鳴り響き、50年という節目にふさわしくとても厳かな雰囲気になりました。さらに、同センター内アトリウムでは、市制50周年を振り返るパネル展や世界文化遺産登録をめざす古市古墳群写真パネル展なども開催し、市民をはじめ、大勢の訪問者で賑



記念式典

市民推進会議より市長に事業提案



わいました。

また、記念式典に引き続き、午後からは、市民主体による記念事業と

して、「絆K I Z U N A シンフォニア2009」と題し、「オラトリオ ヤマトタケル」、「古代史フォーラム」が行われ、市内外から来ていただいた観客はもとより、出演者、スタッフも感動と本市の古代ロマンにふれることができたのではないかと思います。

では、この市民主体の記念事業がどのような経過で実現したのかご紹介いたします。

「市制50周年という節目にあなたの思いを形にしてみませんか?」という市民参加の呼びかけに、市民それぞれが考える「羽曳野らしさ」の提案をいただき、「市制50周年記念事業市民推進会議」が平成19年9月に発足いたしました。

同会議において、市民自らが企画、実施できる記念事業について、検討を重ね、同年12月に、「羽曳野ロマンの探求」、「賑わいのある祭りの創生」、「豊かな自然環境の保全」をテーマとして、①「フォーラム&ミュージカル」、②「だんじりパレード」、③「記念植樹キャンペーン」という3つの事業が市長に提案されました。

これらの事業の実現化に向けて、昨年7月、「市制50周年記念事業市民推進委員会」を立ち上げ、「市民が企画実施するものとは何か」、「市民自らが50周年を祝う気持ちになるにはどのようにすべきか」

などについて、関係機関等と協議を行うなど、幾度となく話し合いを行いました。

その結果、「だんじりパレード」については、残念ながら課題が多く、実施を見送らざるを得なくなりましたが、「絆KIZUNA シンフォニア 2009」、「わたしの好きな“はびきの”の風景」が実現する運びとなりました。

ご存知のとおり、「百舌鳥・古市古墳群—仁徳陵古墳をはじめとする巨大古墳群—」は、大阪府、堺市、藤井寺市と共同で世界文化遺産登録をめざしています。昨年9月の文化審議会の世界遺産特別委員会において、世界遺産暫定一覧表への記載が適当であると評価され、適切な保存管理等の課題の解決に向けて取り組んでいるところです。この古市古墳群のひとつである白鳥陵古墳は、本市の名前の由来となっている古墳です。

「絆KIZUNA シンフォニア 2009」は、この本市ゆかりの英雄「ヤマトタケル」の生涯を市民オペラ（オラトリオ形式）とフォーラムで綴るものとして構成されました。第1部は、一般公募からなる合唱団を中心に、プロのソリストを迎え、オーケストラと雅楽の演奏で綴りました。

また、第2部では、「羽曳野・白鳥伝承—むかし・いま—」をテーマに2つの講演（「歴史から物語を紡ぎ出す街へ」～ヤマトタケル、橘三千代～・「白鳥のふるさと」～古市古墳群の性格～）で構成された「古代史フォーラム」を開催しました。

次に、「わたしの好きな“はびきの”の風景」では、市民が思う「知ってもらいたい」、「残したい」素敵な風景が見えるスポットを昨年10月に募集したところ、40点を超える応募がありました。応募のあ

ったスポットはこれまでの観光スポットにはない新たな視点のものも数多くあり、市民が持つ地域への愛着の再確認や新たな発見につながりました。

現在は、応募されたスポットを市民に発表すべく、広報の記事づくりに取り組むとともに、羽曳野市観光協会と連携し、パンフレットの作成も検討しているところです。

さらに、同協会と連携し、市制施行当時の風景や市の特産品などをデザインした「市制50周年記念切手」を作成し、数量限定で販売していますので、この機会に是非ご購入いただければ幸いです。

また、記念事業として、企業との官民協働事業により、各種手続き等を掲載した羽曳野市「暮らしの便利帳」を作成、本年1月には市民の皆様にお配りいたしました。今後、羽曳野市民となられる皆様方にもお配りする予定です。

これまで市民とともに行う協働事業は、いくつもありましたが、今回のように市の節目となる記念事業を市民が中心となって実施していくことは、本市への思いや助言を聴くことができるよい機会であり、行政としても得るものが多かったと思います。

まちづくりの基本は住民自治です。市民ニーズが多様化・複雑化する中、地域を支える市民一人ひとり、市民団体、企業などと連携した活動に取り組み、民・学・産・官の連携・協働による柔軟かつ多角的なまちづくりを推進して行くことが非常に重要であると改めて実感しました。

本年3月末までの市制50周年記念はもちろん、これからもまちづくりの主役である市民とともに、第5次総合基本計画の将来像である「人・時をつなぐ安心・健康・躍動都市 羽曳野」を目標に、「人のつながり」、「時のつながり」を大切に新たな羽曳野づくりに取り組んで行きたいと思っています。



記念切手



暮らしの便利帳



古市古墳群

「絆 KIZUNA
シンフォニア2009」
第1部
「オラトリオ
ヤマトタケル」

